

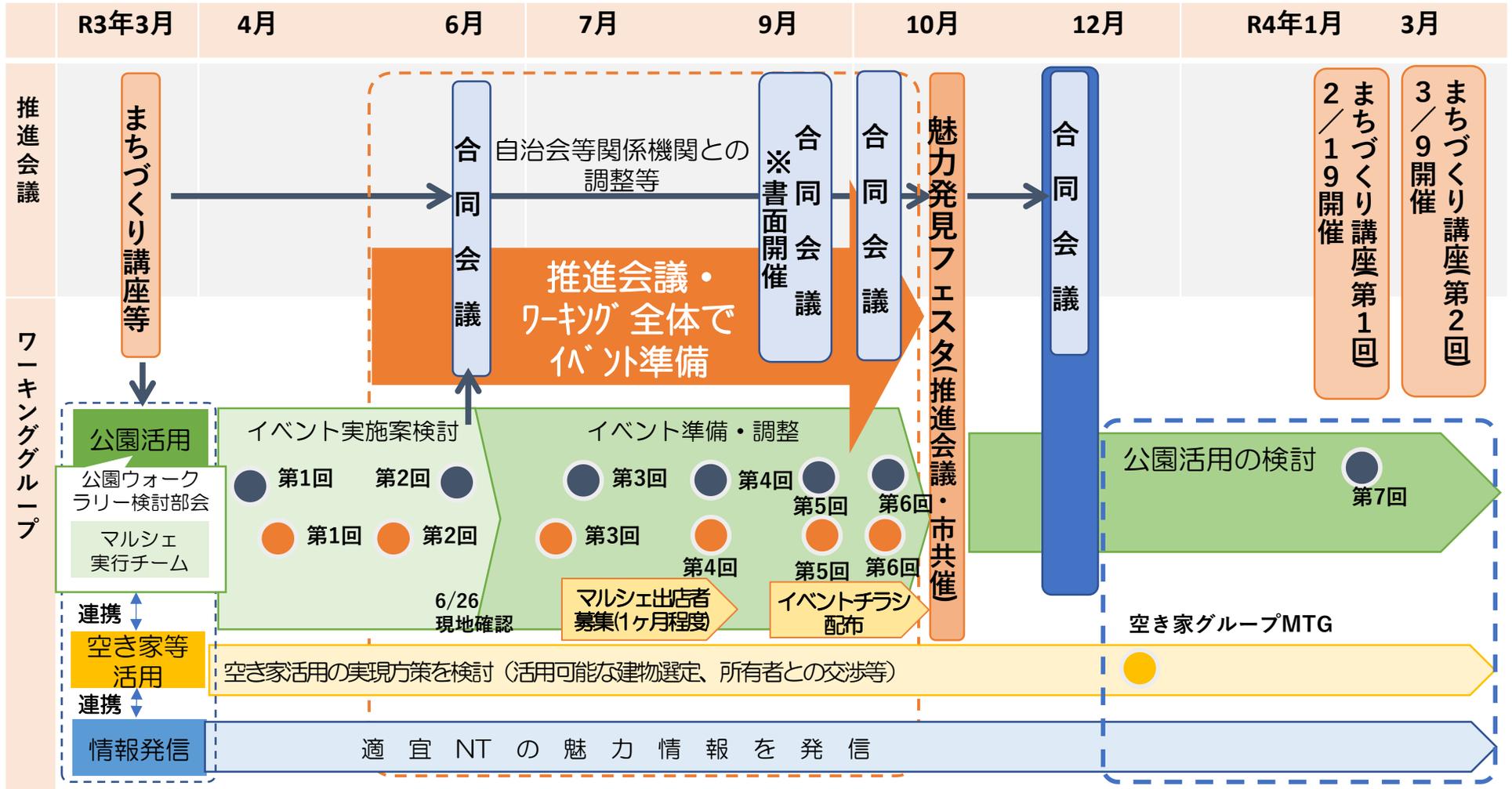
狭山ニュータウン活性化に向けた取組み

【令和3年度】

狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議
(事務局：大阪狭山市政策推進部企画グループ)

1. 全体スケジュール	2
2. プロジェクト推進会議の運営	3
3. ワーキンググループの運営	4
4. まちづくり講座の実施	10
5. 次年度の方向性・取組案	17

1. 全体スケジュール



2. プロジェクト推進会議の運営

- 令和3年度は、推進会議はワーキンググループ会議と合同会議を4回実施(うち1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催)。
- 主に、狭山ニュータウン魅力発見フェスタ開催に向けた取組みの共有、各ワーキンググループの取組みについて意見交換を行った。

推進会議(合同会議)実施概要

	実施日時・場所	参加者数	議題	決定・検討事項等
第1回 合同会議	〔日時〕 令和3年6月28日 (月) 19:00~ 〔場所〕 大阪狭山市立コミュニティ センター 4階 大会議室	21名	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度の取組経過について ● 公園ウォークラリー企画案について ● マルシェ企画案について ● 今後のスケジュールについて 	【合意事項】 ・公園ウォークラリー、マルシェの企画、令和3年度のスケジュールの各内容について、参加者から合意を得た。 【今後の検討事項】 ○ウォークラリー ・景品など配布、地域、事業者等からの募集について。 ・緑道付近のスタンプラリー実施箇所の検討。(3丁目自治会館周辺等) ・2丁目自治会館等、自治会のトイレ貸し出しについて調整。 ・公園パネルについて、可能であれば小学生の参加についても検討する。
第2回 合同会議	令和3年9月10日 (金) ※書面開催	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組経過について ● 「狭山ニュータウン魅力発見フェスタ」概要・チラシ ● 令和3年度の取組みスケジュール ● 「狭山ニュータウン地区」活性化に関するアンケート(お願い) 	—
第3回 合同会議	〔日時〕 令和3年10月25日 (月) 16:00~ 〔場所〕 大阪狭山市立コミュニティ センター 4階 大会議室	22名	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園ウォークラリー企画について ● マルシェ企画について ● 今後のスケジュールについて 	【合意事項】 ・公園ウォークラリー、マルシェの企画、令和3年度のスケジュールの各内容について、参加者から合意を得た。 【今後の検討事項】 ・東大池公園の西側道路(大野台43号線)は渋滞抜け道となっている。特に9時前後と15時~17時の時間帯が混んでいるため、人員配置については要検討。
第4回 合同会議	〔日時〕 令和3年11月29日 (月) 10:00~ 〔場所〕 大阪狭山市役所別館 第3・4会議室	20名	<ul style="list-style-type: none"> ● 狭山ニュータウン魅力発見フェスタ開催報告 ● まちづくり講座の実施企画案について ● 今後のスケジュールについて 	【合意事項】 ・まちづくり講座の実施企画、今後のスケジュールの各内容について、参加者から合意を得た。 【今後の検討事項・意見等】 ・狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクトへの参加希望回答者24名については、今後のイベント等を通して、交流をしていく。 ・マルシェの全体的な評価は良かったが、食べ物やキッチンカーが少なくすぐに売り切れた点、周辺の飲食店がイベントを知らなかったこと等が今後の課題。 ・自治会等の地域が主体となった企画、20~30年後を見据えた視点が必要。 ³

3. ワーキンググループの運営

- 令和3年度は、公園活用グループ、空き家等活用グループ、情報発信グループの3グループで活動を実施。
- 狭山ニュータウン魅力発見フェスタは、各グループメンバーが主体となり、公園ウォークラリー検討部会を組成し企画・実践を行った。
- 東大池公園でのマルシェについては、マルシェ実行チームを公園ウォークラリー検討部会内に組成し、空き家等活用グループ、さやま未来プランナー、帝塚山学院大学のメンバーで企画・実践を行った。
- 空き家等活用グループは、次年度以降実際に活用を進める物件についての調整を行った。
- 情報発信グループは、令和2年度に立ち上げたFacebookグループページの運営を取組みの中心に活動を行った。

令和元年度以降の取組み経過

令和元年度 公募によりワーキンググループメンバーを募集し、18名が参加。チームに分かれ取組みたいことについて令和元年10月～2月まで検討を行った。

ワーキンググループの取組みアイデア

ワーキンググループの取組みアイデアとして以下が出た。

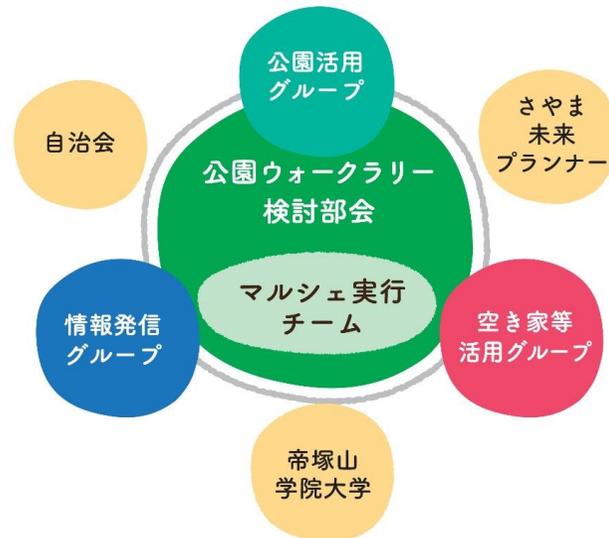
情報発信・健康づくり <small>(空き家等居場所づくり)</small> <ul style="list-style-type: none"> GPSを用いたMAP等を利用した、狭山ニュータウンの魅力的なスポット等の紹介 大野ぶどうを本市のブランドとして市内、市外に向けて認知の向上を図る アプリ等を活用した、健康に対する意識向上・健康増進に個人が関心をもって取り組んでいたお手伝い 	わくわく交差点 <small>(空き家等居場所づくり)</small> <ul style="list-style-type: none"> 夜店（昼店）の開催 小学校の空き教室等を利用した居場所づくり 	手をつなぐ日 <small>(イベント開催)</small> <ul style="list-style-type: none"> 東大池公園で、芝の雰囲気にあったマーケット、地域の農産物を販売するマルシェの開催
	ライフスタイル SAYAMA <small>(空き家等居場所づくり)</small> <ul style="list-style-type: none"> 狭山ニュータウンに住みたい人、店舗等の事業をしたい人に対するの情報提供 	公園活用 <ul style="list-style-type: none"> 公園を知り、活用するためのスタンプラリー&アンケートの実施

令和2年度 情報発信グループ、空き家等活用グループ、公園活用グループに分かれ、前年度検討したアイデアをブラッシュアップし、令和3年度の実体化に向けて取組んだ。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前半は活動を休止

情報発信グループ <ul style="list-style-type: none"> Facebookグループページを立ち上げ、狭山ニュータウン及び周辺の情報を発信している 帝塚山学院大学の学生によるお店マップづくりも進行中 	空き家等活用グループ <ul style="list-style-type: none"> 公園ウォークラリーと連携した空き店舗活用を企画 空き家等の把握を進めている 	公園活用グループ <ul style="list-style-type: none"> 公園を地域の居場所として活用していくきっかけづくりとして、公園ウォークラリーを企画
--	--	---

- 令和3年度**
- 令和2年度までの取組みを踏まえ、ニュータウン地区活性化のキックオフイベントを「狭山ニュータウン魅力発見フェスタ」と題し、「狭山ニュータウン謎解きウォーキング」&「さやマルシェ」の開催に向け、自治会や帝塚山学院大学、さやま未来プランナーなどと連携して準備を進めた。
 - 本イベントは公園の魅力発見や住民間のコミュニケーションづくり、ニュータウン地区のまちの魅力の再発見や情報発信などにつなげることを目的としている。



1. 公園ウォークラリー検討部会(公園活用グループ他)の取り組み

- 3グループのメンバーが入り、公園ウォークラリーを中心とした実施内容検討、準備、当日運営を実施。
- 地域や自治会との連絡・調整の中心的役割を担った。

期日	会議名称等	協議内容
令和3年 4月6日(火)	第1回公園ウォークラリー検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • 公園ウォークラリー検討部会を開催し、キックオフイベント(公園ウォークラリー)の大枠について話し合いを行うとともに、公園ウォークラリーと同日開催でマルシェを実施することについて意見交換を行った。 • マルシェのスタッフとして、帝塚山学院大学やさやま未来プランナーに協力を要請することとした。
4月13日(火)	南中円卓会議理事会運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> • 南中円卓会議理事会運営委員会に出席し、公園ウォークラリー検討部会のメンバーから、キックオフイベント(公園ウォークラリー&マルシェ)の概要について説明を行っていただいた。5/8の理事会後に、自治会長の皆さんに説明を行い、自治会への協力を要請することについて了承をいただいた。※緊急事態宣言が発令され、理事会は5/29に延期となった。
5月17日(月)	公園ウォークラリー打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> • 公園ウォークラリー検討部会メンバーに、キックオフイベントの企画概要案とスケジュール案について情報提供を行った。
6月1日(火)	自治会長へのお知らせ・依頼(書面)	<ul style="list-style-type: none"> • 5/29に開催予定であった南中円卓会議の理事会が緊急事態宣言の期間延長により、書面開催となったため、理事会後に予定していた自治会長へのお知らせとお願いについても書面でお送りした。
6月21日(月)	第2回公園ウォークラリー検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • ウォークラリー、マルシェの企画骨子、実施体制について確認をした。 • ウォークラリーのタイトルが「狭山ニュータウン謎解きウォーキング」に決定。
7月8日(木)	部会リーダー・サブリーダー打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> • 公園ウォークラリー検討部会リーダー、サブリーダーとウォークラリーの出題クイズや自治会への協力要請について打ち合わせを行った。
7月19日(月)	第3回公園ウォークラリー検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • ウォークラリーの具体的内容と参加者特典、人員配置、自治会との連携、参加者募集について話し合いをした。
8月12日(木)	公園ウォークラリー検討部会打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会交流会に向けて、打ち合わせを行った。また、マルシェの応募状況、選考等について話し合いを行った。
8月14日(土)	自治会交流会	<ul style="list-style-type: none"> • 南中円卓会議理事会終了後開催された自治会交流会に出席し、イベントへの協力要請を行った。
8月23日(月)	第4回公園ウォークラリー検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • ラリー台紙・スタンプ案、クイズ内容、参加賞・景品の具体化。 • 自治会に協力いただく内容、参加者募集方法、準備物について検討。
8月27日(金) ~9月1日(水)	ウォークラリー参加者募集	<ul style="list-style-type: none"> • 市広報、チラシによりウォークラリーの参加者を募集。 • 6日間で定員100名を超える応募(39組122名)。
9月17日(金)	第5回公園ウォークラリー検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • 参加者応募状況の確認。 • 当日の実施体制、謎解きウォーキング台紙・未就学児向けクイズ、参加賞・景品、公園パネル案について検討。
10月3日(日)	当日スタッフ説明会	<ul style="list-style-type: none"> • 当日お手伝いいただく自治会スタッフの皆さんに対する説明会を開催した。
10月15日(金)	第6回公園ウォークラリー検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • 当日の体制、受付対応、感染症対策、アンケートの確認。 • 参加賞・景品、謎解きウォーキング台紙/MAP、未就学児向けクイズ、公園パネルの最終確認。
令和4年 2月2日(水)	第7回公園ウォークラリー検討部会	<ul style="list-style-type: none"> • オンライン開催。 • 令和4年度狭山ニュータウン魅力発見フェスタ企画大枠、魅力発見フェスタphotoブック、先進地視察について検討。

(マルシェ実行チーム)

- 公園ウォークラリー検討部会内に設置したマルシェ実行組織。マルシェの実施内容検討、準備、当日運営を実施。
- さやま未来プランナー、帝塚山学院大学学生がメンバーとして参画。

期日	会議名称等	協議内容
令和3年 4月30日(金)	マルシェ実施に向けた打ち合わせ	• さやま未来プランナーに、マルシェへの参画を要請し、了解を得た。
5月7日(金)	マルシェ実施に向けた打ち合わせ	• チームリーダーと帝塚山学院大学教授、学生との打ち合わせについて事前打ち合わせを行った。(オンラインで実施)
5月14日(金)	第1回マルシェ実行チームミーティング①	• マルシェ実行チームメンバーの顔合わせ(チームリーダー、帝塚山学院大学教授及び学生26人)及び第1回打ち合わせを行った。(オンラインで実施)。 • メンバーの自己紹介、狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクトの説明、マルシェの企画骨子説明、意見交換。
5月24日(金)	第1回マルシェ実行チームミーティング②	• チームリーダーとさやま未来プランナーの顔合わせとマルシェ開催に向けた打ち合わせを行った。(オンラインで実施) • メンバーの自己紹介、狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクトの説明、マルシェの企画骨子説明、意見交換
6月12日(土)	第2回マルシェ実行チームミーティング	• チームリーダー、帝塚山学院大学、さやま未来プランナー全員が揃ったの初会議。 • テーマ、コンセプト案について意見交換。 • 3つのグループ分け(空間づくり、広報、出店者募集)。 • 会場レイアウト案、募集要項案の説明。
6月26日(土)	現地(東大池公園)確認	• 実行チームのメンバーでマルシェ会場となる東大池公園を見学。
7月9日(金)	第3回マルシェ実行チームミーティングに向けた打ち合わせ	• チームリーダーと事務局で第3回マルシェ実行チームミーティングに向けた打ち合わせを行った。
7月15日(木)	第3回マルシェ実行チームミーティング	• 募集チラシ案の確認。 • 3つのグループに分かれての意見交換。(○空間づくり:飾り付けのテーマ、配置 ○広報(SNS他):発信媒体、SNS発信のルール・役割分担 ○出店者募集・調整:募集チラシ配布先案、出店者ルール案)
7月20日(火) ~8月16日(月)	出店者募集	• 大阪狭山市ウェブサイト、専用チラシ、未来を育むプロジェクト専用Facebookページ、マルシェ専用Instagram・Twitterで出店者募集を実施。 • 大阪狭山市内の個人、店舗等18店の出店が決定。
8月19日(木)	第4回マルシェ実行チームミーティング	• 一般向けチラシの最終確認。 • 出店者募集結果の報告。 • グループに分かれての意見交換。(○空間づくり:飾り付けの内容・場所・分担の確認 ○広報: SNSの運用ルール決定、役割分担 ○出店者:応募内容の確認)
9月30日(木)	第5回マルシェ実行チームミーティング	• 当日のスタッフ配置・タイムテーブル案の確認。 • 当日マップ、出店者搬入出の確認。 • グループに分かれての意見交換。(○空間づくり:飾り付けの内容確定 ○広報:今後のSNS投稿内容・担当の確認、当日マップ確認 ○出店者:当日の人員配置・役割分担について)
10月18日(月)	第6回マルシェ実行チームミーティング	• 当日のスタッフ配置・感染症対策案の確認。 • 当日MAPの確認。 • グループに分かれての意見交換。(○空間づくり:飾り付けの最終確認、オーナメントづくり ○広報: SNS投稿内容・当日の担当の確認 ○出店者:当日の人員配置・役割分担について)

狭山ニュータウン魅力発見フェスタ実施概要 令和3年10月30日(土) 10時~16時【天候：晴れ】

主催：狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議 共催：大阪狭山市

1. 狭山ニュータウン 謎解きウォーキング開催概要

日時：令和3年10月30日(土) 10:00~12:00 (受付時間9:45~、最終参加者到着時刻：12:00)

場所：大野台2丁目~6丁目周辺

主催：狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議(※公園ウォークラリー検討部会(実施までに全6回開催)が中心となり企画・実施) 共催：大阪狭山市

協力企業：大阪第一交通株式会社、南海電気鉄道株式会社、南海バス株式会社

参加者数：91名(31組)

【参加者の内訳】 ※9割近くが子育て層(小学生以下と中学生以上の子どもとその親)

- ・ 親子(小学生以下) 73名(23組)
- ・ 親子(中学生以上含む) 6名(3組)
- ・ 親子(大人) 6名(2組)
- ・ 夫婦：6名(3組)
- ・ 単独0名(0組)

当日の体制(運営スタッフ)：47名

- ・ 推進会議・ワーキンググループメンバー9名(受付・東大池公園ラリーポイント)
- ・ 自治会スタッフ32名(誘導・ラリーポイント)
- ・ 大阪狭山市2名(受付・誘導)
- ・ ダン計画研究所4名(受付・誘導・カメラマン)

参加者の評価

アンケート回答者：35名(うち18名はさやマルシェにも参加)

○謎解きウォーキングの評価：

「大変良い」が約66%、「良い」が約31%、合計が9割以上の回答者から高い評価を得たと言える。

「あまり良くない」「良くない」の回答は0であった。

○感想(自由記述・抜粋)

- ・ 知らない所をウォーキング出来て楽しかったです。
- ・ ほどよく歩いて問題も難しくなかったため。
- ・ クイズが面白い。
- ・ 知っている街だけど歩くことで新しいことが知れて楽しかった。
- ・ 謎解き要素が薄いかも。



写真：当日の様子

2. 東大池公園ハロウィンパーティ さやマルシェ実施概要

日時：令和3年10月30日(土) 11:00～16:00

場所：東大池公園・芝生広場(大阪府大阪狭山市大野台4丁目1)

主催：狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議(※マルシェ実行チーム(実施までに全6回開催)が中心となり企画・実践) 共催：大阪狭山市

協力：さやま未来プランナー、帝塚山学院大学

来場者数：1,063名

出店数：18組

【出店者の内訳】

(分類)

・ 雑貨・アート：8組(うち、体験兼用2組)、飲食6組、体験4組

(所在)

・ 狭山ニュータウン地区3組、大阪狭山市内11組、市外4組

※8割近くが市内の個人・団体等

当日の体制(運営スタッフ)：53名

- ・ 推進会議・ワーキンググループメンバー6名(本部・会場内外誘導他)
- ・ さやま未来プランナー9名(誘導・ワークショップ他)
- ・ 帝塚山学院大学27名(誘導・ワークショップ他)
- ・ 大阪狭山市5名(本部・会場内外誘導他)
- ・ ダン計画研究所6名(会場内誘導・アンケート回収他)

参加者の評価

アンケート回答者：99名(うち18名は謎解きウォーキングにも参加)

○さやマルシェの評価：

「大変良い」が約34%、「良い」が約44%、合計が8割近くを占め高い評価を得たと言える。

○感想(自由記述・抜粋)

- ・ 皆が楽しめる企画。
- ・ こういう外でのイベントがあまりなかったので楽しかったです。
- ・ 市民がふれあいながら、町づくりについて知ることができる。
- ・ 幅広年代の方が集まって楽しそうだった。
- ・ 規模が小さい。
- ・ 食べ物屋がもう少し欲しかった。
- ・ 食べものが少なく、待ち時間が長い。

出店者回答者：17組(※1組は未回答)

○今後の参加意向：

すべての出店者が「参加したい」と回答。



写真：当日の様子

2. 空き家等活用グループの取組み

- 公園ウォークラリー検討部会のメンバーとして、魅力発見フェスタの企画・実践に取り組む他、令和元年度から検討してきた「居場所づくり」について具体化に向け、ワーキンググループメンバーからの空き店舗の提供により活用を進める場所が確定。
- 先進事例調査、視察により次年度に向けた機運醸成を行った。

3. 情報発信グループの取組み

- 公園ウォークラリー検討部会のメンバーとして、魅力発見フェスタの企画・実践に取り組み、Instagramを使ったさやマルシェの情報発信を実施。
- 令和2年度に立ち上げたFacebookグループページ「大阪狭山 陽だまりお散歩暮らし ～狭山ニュータウン周辺の情報をシェア～」について定期的な情報発信を実施。グループの登録者数は令和4年3月末で約240人と前年度から倍増。
- 第1回まちづくり講座は情報発信グループメンバーが講師となり、SNSを使った情報発信、動画撮影・投稿についての講座をオンラインで実施した。

Facebookグループページの投稿(一例)



大阪狭山 陽だまりお散歩暮らし
～狭山ニュータウン周辺の情報を
シェア～

公開グループ・メンバー243人

ハヤシベダイスケさんがリンクをシェアしました。
3月2日 15:16

大野台第6公園（ロケット公園）の遊具が改修中です！

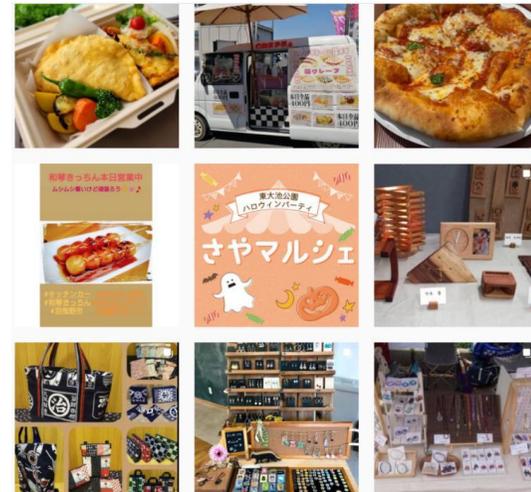
OSAYAMA.COM
「大野台第6公園（ロケット公園）」の遊具が改修中【2022年3月31日まで】 | 大阪狭山びこー大阪狭山市の地域情報...

さやマルシェInstagramの投稿(一例)

saya_marche メッセージを送信 ...

投稿45件 フォロワー120人 フォロワー中90人

さやマルシェ～東大池公園ハロウィンパーティー～
2021年10月30日（土）開催予定・さやマルシェのアカウントです！#さやマルシェ
www.city.osakasayama.osaka.jp/sosiki/seisakusuisinbu/kikakugurupu/sayamanyut...
フォロワー: kokoji.riha, yuuichinakaseko, osam_60_josh, 他6人



4. まちづくり講座の実施

実施目的

- 令和2年度に引き続き、令和3年度も人材発掘に向けたまちづくり講座を2回実施(第1回：オンライン講座、第2回：他市視察)。
- 参加者が「自分ごとのまちづくり」について理解を深め、今年度以降のまちづくりの実践に繋げることを目的とし実施した。



住民・市民の皆さんに
本プロジェクトへの理解
を深めていただく場



今後の取組みの実践や
機運の醸成に繋がる
プロジェクトメンバーの
ための学びの場



実施概要

第1回まちづくり講座(オンラインセミナー)：令和4年2月19日(土) 14時~16時【参加者：17名】	
テーマ	「プロから学ぶ！情報発信～情報発信からはじまるまちづくり～」 ◇ 自分でできるまちづくりの第1歩である、まちの魅力を知り・発信する手法について実践を交えて学ぶ
講師	中林拓也氏(ワーキンググループメンバー・株式会社 阪神コンテンツリンクインバウンド事業部 プロデューサー)
進行概要	0. 開会、講師紹介(5分) 1. 講師からのレクチャー【前半】Facebook,Instagramの特徴・機能等について(45分) ※休憩(10分) 2. 講師からのレクチャー【後半】動画投稿についての説明、簡単な実践(40分) 3. 参加者からの質問(10分) 4. プロジェクトメンバー募集(5分) 5. 閉会(5分)
第2回まちづくり講座(泉北ニュータウン視察)：令和4年3月9日(水) 9時半~14時【参加者：6名】	
テーマ	「公園活用や空き家活用の事例を学ぶ」
視察地	堺市南区(泉北ニュータウン)
進行概要	視察地 1. 泉北ラボ (運営：一般社団法人泉北のまちと暮らしを考える財団代表理事・宝楽陸寛氏) 視察地 2. LIFEisPARK大蓮公園(運営：一般社団法人seedFOLKS理事・高田真由美氏) 視察地 3. ゆっくりばこ(運営：西紋建匠株式会社・西恭利氏)

(前半) 1. SNS(Facebook、Instagram)の特徴・機能

	①Facebook	②Instagram
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 通常投稿は写真・動画・ライブがある。「ストーリー」という24時間で消える限定的な投稿が可能。 通常投稿とは別にFacebookページやFacebookグループ等があり、特定のコミュニティに向けた投稿もできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常投稿・ストーリーに加えて長めの動画を投稿できるIGTV、短い動画を投稿することに特化したリールがある。ストーリーの特徴はFacebookとほぼ同じで、ハイライト機能でまとめることができる。 「インスタ映え」という言葉が流行したように、見た目が美しい写真で注目を集める。間接広告型の投稿や、昨今では文字中心の情報提供型の投稿も増えている。 シェア機能や投稿写真のレイアウトの補助などInstagramの投稿を補うためのアプリが存在する。
多くの人に 見てもらう ために	<ul style="list-style-type: none"> 見た目の重要度が大きく、シェアしてもらいやすくなるような仕掛けが必要である。 週2回以上の頻繁な投稿が望ましく、FacebookページやFacebookグループへ参加しシェア機能を活用するとよい。 通常投稿では動画や画像の中に人が映っているものが表示されやすく、テキスト表示はなるべく小さくすると見やすくなる。 店舗やビジネス関連の投稿では情報を詳細に記載し、コメントや「いいね」などを活用しコミュニケーションが行われやすくなるような投稿を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> Facebookと同じく見た目やわかりやすさが重視されており、画質の良さも重要。 ハッシュタグを活用することで効率的に情報拡散をすることができる。 週2～3回以上の投稿をし、内容によって複数の投稿機能を使い分けバランスよく使っていくことが大事である。 視聴者やほかのアカウントへの「いいね」やコメントをこまめに行い、ユーザーとの親密度を上げていく。 プロフィールページの世界観を統一し、誰が発信しているのかがページ全体や投稿から感じられるとユーザーからの信頼を得やすく、フォローや商品購入につながる。 <p>○Instagramを店舗やビジネスで使う場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 店舗の宣伝やビジネス目的での使用を考えている場合はビジネスアカウントに変更すると、広告の利用やインサイトの閲覧、通販サイトと連携できるショッピング機能を利用することができる。 どのように商品を買ってもらうか、拡散してもらうかなど、SNSでのユーザーの行動様式を理解して運用していく必要がある。
投稿を行う ときの注意	<ul style="list-style-type: none"> 被写体の肖像権・著作権に注意することが必要であり、撮影、投稿によって誰かを傷つけない内容にする。 YouTube等の外部リンクが閲覧しにくくなるなど、SNSの仕様やアルゴリズムは定期的に変更される。情報収集をして変化に対応できるようにする。 	

(後半) 2. 動画投稿について

○動画の特性

- 写真よりも圧倒的に情報量が多く、テキストよりもありのままを表現することが可能である。動きや音を使った演出で興味を惹きつけたり、感情に訴えかけたりもできる。
- 一方で、動画は視聴するために「集中する時間」が必要であり、ゆったりと見せるか、隙間時間で見せるかなど視聴環境によって「見せ方」を変える必要がある。
- また、アップロードするだけで拡散されるわけではないので、どうやって見せていかか、どこに配置するかが重要になっていく。

○SNS動画撮影・制作・投稿時に気を付けるポイント

- ①被写体と見せ方に最適なSNSを選んで投稿することが重要である。
- ②「何を・どのように見せるのか」を考える際タイトルを考えておくこと簡潔に伝えることができる。
- ③時間尺と情報量を絞り、一つの動画で伝えたい内容を整理することが重要である。
- ④動画と投稿テキストで役割分担し、動画に映るテキストは最小限にする。
- ⑤目線をつけ、誰目線の映像かをわかるようにする。
- ⑥見せたいものに伴う音をうまく活用する。
- ⑦対象物を効果的に見せるため順光・逆光、光量は十分か確認し、ライティングを考えて撮影する。

【スマートフォンでの動画撮影・投稿】

○スマートフォン単体で動画撮影をする場合

- 現在はスマートフォン単体でクオリティの高い動画を撮る事が可能である。撮ってすぐSNSにアップロードでき、アプリなどですぐに簡単に編集もできる。スマートフォンを構えればすぐに撮影できることから、臨場感あふれる映像も撮りやすいなどの強みがある。
- 一方でポケ味のある映像が撮りにくい、手ブレがしやすい、動きの激しいものを撮りづらい、テレビのような細かな編集は出来ないなどの弱みもあるが、スマートフォンの高性能化によりカバーされている部分もある。
- スマートフォンで撮影をする際には手軽であるということを理解したうえで、リアリティのある映像を撮ることを目的とするとよいといえる。

○撮影の基本ルール（実演しながら解説）

- 画面の向きは投稿するSNSや被写体で縦もしくは横を使い分ける。スマートフォンで閲覧する際、横画面だとInstagramやFacebookは表示が小さくなってしまいますので、縦画面のほうがよいとされる。
- 横向きに持つ場合、四隅を支える持ち方だと揺れて安定しづらいので、中指で背面を押さえつつ、人差し指と親指で横側面から下部辺りを抱えるような持ち方だと安定しやすい。縦向きの場合、人差し指と中指で背面を支えつつ片手で持つと安定する。安定した持ち方で撮影することは基本的なことだが非常に重要である。
- 被写体に動きがあるときはなるべく動かさず撮影し、被写体に動きがないときはカメラが動くインパクトのある動画を撮ることができる。

○動画投稿のポイント（けん玉を使い、実演しながら解説）

<実践例>

- 何をどう見せたいか、どのように見せれば興味をもってもらえるか考える＝タイトルをつける。
 - どのSNSに、どのようなテキストとともに投稿するか考える。
 - 面白い！すごい！欲しい！など、期待する相手の反応を想定しながら撮影する。
- ①編集は少なくシンプルな短尺動画で、出来れば1分以内。
 - ②冒頭3秒で注意をひければ半数以上の人が最後まで視聴するので、インパクトのある冒頭を考える。
 - ③テロップ・投稿本文を活用し、音が無くてわかる動画にする。
 - ④あえて多くは語らないのが理想。
 - ⑤Facebook・Instagramの場合、画角は1：1が理想。

3. 参加者からの質疑・応答

Q. TwitterやInstagramの初心者です。使うときに個人情報保護の点で気を付けるべきことを教えて欲しい。

- 他人を許可なく映したり、写真の中に手紙や住所などの個人情報がわかるものが映ってしまわないようにする。
- 撮る対象の背景はシンプルであることが理想的である。

Q. インスタのリポスト機能を使う為に必要な、安全でオススメのアプリを教えて欲しい。

- Instagramの紹介の際に説明済み。
- リポストの使いすぎは印象が良くない場合もある。

Q. インスタのリール動画とは？どのように撮影し、投稿すると効果的か、活用方法について。

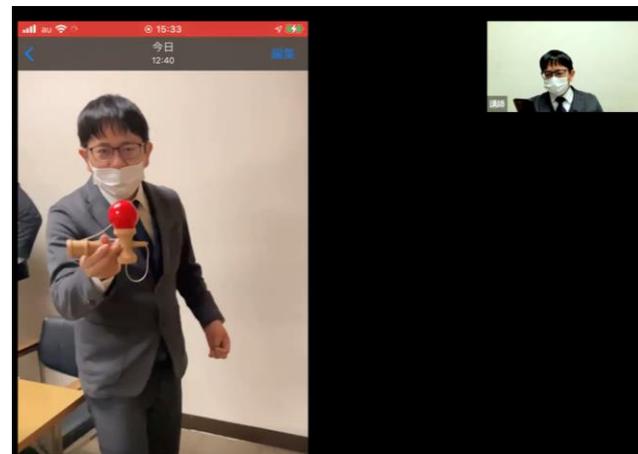
- TikTokのようなエフェクトを付けたショート動画の投稿が可能。通常投稿より露出量を増やすことができる。

Q. YouTube Liveの設定、操作について。

- Googleアカウントを作成してYouTubeチャンネルを設立後、申請を出して24時間後からライブ配信が可能になる。スマートフォンでの配信はチャンネル登録者が1000人以上必要。

Q. 大阪狭山市でワークショップ等の活動をしているが、Facebookグループ「大阪狭山市 陽だまりお散歩暮らし」の投稿でNGなものはあるか。

- 自分の利益の為だけの投稿はNGだが、大阪狭山市近隣での活動を広めたいということなら個人的な事でも大歓迎。



写真：オンラインセミナーの様子

第2回まちづくり講座(泉北ニュータウン視察)：令和4年3月9日(水) 10時~14時

視察概要【視察先：泉北ラボ、LIFE is PARK大蓮公園、ゆっくりばこ】 参加者：ワーキンググループメンバー6名

視察先1. 泉北ラボ 講師：宝楽陸寛氏 特定非営利活動法人SEIN コミュニティLAB所長、一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 代表理事

○特定非営利活動法人SEIN・一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団について

- 宝楽氏の主な活動は、住民主体のエリアマネジメントや企業と市民のエリアマネジメント、学校と地域によるエリアマネジメント等を行っている。
- エリアマネジメントのポイントは、住民自治の当事者を増やすことと考える。
- 2016年に設立した一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団は、市民から寄付を集めて、必要な場所へ支援するコーディネートを行っている。現在の最大のポイントは、子ども達の困りごとから、泉北ニュータウンの課題を見つけること。
- 2019年から寄付キャンペーンを実施しており、2021年度は約1,600万円の寄付を集めた。
- 泉北ニュータウンで活動をしていく中で、SENBOKU TRIALや南海電鉄のつながるDAYS等の活動団体や事業を見つける事ができた。
- 財団を創設する上で、初めに財源についてではなく、30年後どんなまちにしたいかという将来を話し合った。全10回、参加者数延べ58名の勉強会を実施した。
- 財団のメンバー(寄付者)は約700人おり、理事会は月1回で6人で運営している。

○泉北ラボについて

【機能・用途】

- 財団法人を立ち上げた当初から、コワーキングスペースや子育て支援等の機能をごちゃまぜにした施設を作りたかった。
- 旧高倉台西小学校跡地に大阪健康福祉短期大学のキャンパスが設立され、導入機能として、地域と対話し運営する地域連携機能が設置されることになり、運営パートナーして、一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団が選ばれた。
- 泉北ラボ周辺の潜在ニーズを調査し、ワンオペ育児、家事支援、コインランドリーのニーズがあることが分かり、「まちの家事室」を立ち上げた。
- 大阪健康福祉短期大学のキャンパスは、泉北ニュータウンの周縁部に位置し立地があまり良くないが、泉北ラボは通り抜け動線のある開放的な空間を目指している。

【初期整備費用】

- 建物躯体の建設費は大学、内装は財団が負担。財源がないため、クラウドファンディングや各財団の助成金を活用した。
- クラウドファンディングで約300万円(236人)、村上財団の支援は250万円、その他、トヨタ財団の助成金を受けている。

【運営】

- プロジェクトの実施主体は、一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団。施設の使用料は、カフェ、場所貸し、ランドリーで徴収している。
- 2階のスペースの利用料は1000円/日。
- カフェは独立採算制とし、カフェのオーナーが家賃を財団に払っている。2月のレジ通過者は約1,000人。
- ランドリー利用者は、まだ知られていないこともあり週に2,3人。
- 地域住民を対象に1,000枚のチラシを配布し、利用者が増えた。現在は、大きな広告で広域から人を集めるよりも、地域住民に利用してもらうことを大切にしている。
- コーディネーターはボランティアで協力してもらっており雇用はしていないが、4月から公益財団法人に移行予定で職員を新たに1名雇用する予定。

写真：
視察先・
見学の
様子



視察先 2. 大蓮公園 講師：高田麻由美氏 一般社団法人 seedFOLKS

○大蓮公園や一般社団法人 seedFOLKSについて

- 泉北ニュータウンの人口が減っている中、活性化の目標があった。大蓮公園は、数年前の台風で木が倒れるなど、荒れており、人が近づかない公園となっていた。
- 建築家の槇文彦氏の名建築を残したい思いから、2019年に大蓮公園でPark-PFI事業が発足。
- 2020年に大蓮公園で、パークキャンプ・BBQ・カフェ（Design Ohasu Days）や公園マルシェ（LIE is PARK）、くらし・住まいの相談（くらしテラス IZUMIGAOKA）、シェアスペース・カフェ（space.SUEMURA）、公園駐車場（タイムズ駐車場）、市民活動の場（OHASU FUN）等の施設が誕生した。
- 市民活動の場（OHASU FUN）は堺市と市民、事業者が協力して活動している。
- 2014年に堺市が泉北の魅力をつら創り伝える市民活動「泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト」を立ち上げ、「LOTUS Café」や「まちいえ」等の活動をしていた。
- 「LOTUS Café」と「まちいえ」の企画代表が、一般社団法人 seedFOLKSを設立。

○LIFE is PARK(LiP)について

- LiPは、みんながフラッと立ち寄る空間を目指す公園マルシェのこと。市民の「やってみたい！」を応援する場所。
- LiPの運営は、一般社団法人seedFOLKSが行っている。
- LiPもOHASU FUNの一員として活動している。
- 補助金は一切もらっていない。
- 黒いタープの下で、パンや洋菓子の販売、野外写真館、ハンドメイド雑貨、野菜販売等の様々な店が日替わりで並んでいる。
- 9店舗から始まり、2年近くで50店舗以上となった。
- LiPは市民の窓口であり、事業者と市民をつなぐバランスで、市民と一緒に大蓮公園を育てている。



写真：視察先・見学の様子

視察先3. ゆっくりばこ 講師：西恭利氏 西紋建匠株式会社代表

○自身と泉北ニュータウンの関わりについて

- 住宅を中心とした建築設計、施工を仕事としている。2014年に独立した後、さかい新事業創造センターに入所し、泉北ニュータウンの再生の事業を立ち上げた。
- 堺市の泉北ニュータウン地域再生室主導で、泉北ニュータウンの活性化プロジェクトが発足したため、応募した。
- だんじりkitchenを運営し、公園でゲリラ的にカレーを作っている。
- ハード面より先にソフト面（人とのつながり）を重視した。
- 泉北ニュータウン内で地域拠点を1年くらい探し、現在のゆっくりばこの物件を住宅兼事務所として利用するため購入した。
- 活性化する上で、仕事を生むシステムや仕組みを作ることが重要。

○ゆっくりばこについて

- ゆっくりばこのテーマは、自宅を公に住み開きとして、コワーキングスペースとしての開放やキッチンスペース等の貸し出しを行っている。
- 愛知県の「人生フルーツ」を参考としている。
- 自身の住宅は別にあり、ゆっくりばこはセカンドハウスとしている。西紋建匠株式会社の事務所としても使用しているため、自身や会社のスタッフが日常的な運営を行っている。
- 物件を購入して、改装した。西氏個人で所有しており、会社に貸している。会社から西氏個人に家賃を払う形式となっている。
- 飲食業と菓子製造業の許可を取っているため、レストランやパン教室などでの利用も可能。
- ヨガやランニングの拠点として利用も想定している。
- コワーキング、レンタルスペース共に利用料金は、ゆっくりばこ全体で500円/日・人となっている。調理器具等も別途料金なしで、使用可能。
- 利用時間は、9時～16時まで開放している。
- 今後については、場所貸しを通して、人と人が繋がり、仕事を生むのが理想的。
- 熱意をもって主体的に取り組めるプレイヤーが重要となる。
- 通常の拠点であれば、行政が抜けた後に、どのように運営していくかがコツとなる。



写真：視察先・見学の様子



5. 次年度の方向性・取組案

1. 取組みの方向性

○取組みの前提 (狭山ニュータウン地区活性化指針)

めざすべき将来像

多様な世代が暮らし、集い「交流」するまち

誰もがいくつになっても健やかに「活躍」できるまち

狭山ニュータウンらしさを「発信」し続けるまち

【実現のための基本的な5つの視点】

1. 新たなにぎわいやふれあいの創出

2. 子育て層に選ばれる子育て支援・教育環境の充実

3. 日常生活を支えるサービスと支え合いの展開

4. 快適で魅力的な都市空間の形成

5. 地域の安全・安心の向上

狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議の位置づけ、ミッション

- 活性化指針の具体化に向けた共通のプラットフォーム(意見交換の場)
- 住民や地域活動団体が主体となった「自分ごと」のプロジェクトの企画、実践
- 担い手の育成・拡大

- ・ 令和3年度末時点で、令和元年度に取りまとめた「自分ごと」の2つのプロジェクトを(公園活用、情報発信)を実現。「新たなにぎわいやふれあいの創出」、「子育て層への取組みの訴求」に寄与する、具体的な取組みを進めている。
- ・ 狭山ニュータウン活性化の取組みに共感、賛同する人も徐々に増えているが、企画・実践の中心となる人材の固定化、担い手の発掘、推進会議の自立化に課題が残る。

○今後の方向性



1「自分ごと」のまちづくりの情報共有、意見交換の場としての推進会議のあり方整理

- ・ 規約の見直し(経費の取扱い、会議の構成、役員の選任など)
- ・ 住民や地域活動団体による、主体的な運営が可能な組織の簡略化、位置づけの見直し



2「自分ごと」のプロジェクトのステップアップと自走化

- ・ 令和3年度までに実現した2つのプロジェクトを(公園活用(魅力発見フェスタ)、情報発信)の更なる発展と、継続実施が可能な体制、スキーム構築。(人、お金等)
- ・ 空き家等活用による「居場所づくり」の実現に向けた支援。自走化。



3 新たな担い手の発掘、「自分ごと」のプロジェクトで繋がるゆるやかなコミュニティの形成

- ・ 公園活用や空き家等活用、情報発信のプロジェクト実践を通じた新たな担い手の発掘。
- ・ 各プロジェクト実現に向けた、地域内外の個人・団体等との連携・協力体制の構築。
- ・ SNS等を使った取組みの情報発信・共有。

2. ワーキンググループの取組案

- 令和3年度の各グループの検討をベースに、公園活用、空き家等活用、情報発信の3グループの次年度の取組みの方向性、内容案についてまとめる。



令和4年度

- ①公園ウォークラリー検討部会を中心とした、第2回魅力発見フェスタの企画、実践。
 - ・ エリア：西山台で調整
 - ・ 南第1小学校のコミュニティスクール、狭山ニュータウン名店街の居場所づくりと連携する方向で調整
- ②魅力発見フェスタ（公園ウォークラリー等）のR5年度以降の継続開催に向けた人員、財源、体制等の検討。

- ①狭山ニュータウン名店街の空き店舗をモデルとした、居場所づくりに向けた具体的活用方法・運営体制等の検討、実践。
 - ・ 第2回魅力発見フェスタと連携した、イベント等の実施。
 - ・ 多様な主体を巻き込んだ社会実験の開催等。

- ①Facebookグループページでの継続した情報発信、主体となる投稿者の発掘、グループ参加者の募集。
- ②まちづくり講座(2回：「(仮称)市民ライター養成講座」)開催。
 - ・ スキルアップの場づくり、ゆるやかなネットワーク構築。
 - ・ 若年層、子育て層向けの情報発信ツール (Instagram、YouTube等)の活用検討、実践。

3. 令和4年度の全体スケジュール案

<令和4年度の実行方針（案）>

- ・推進会議のあり方の見直し、自立に向けた再編。
- ・空き家等活用プロジェクトの実現に向けた企画、実践。各プロジェクトのR5年度以降の自走化に向けた体制・スキームづくり。
- ・各プロジェクトの企画、実践を担うメンバーの育成。新たな担い手の発掘、拡大。

